

中国語の「関」と「しめる」「とじる」との比較

梁 慧

1. はじめに

本稿では中国語の「関 (guān)」を取り上げて、「しめる」「とじる」と比較してみたい。国立国語研究所1964では、「しめる」「とじる」はともに「2.155₃開閉」の項に分類されている。この二語は開いたものを<閉鎖>状態にするという点で、類義関係にある。中国語の「関」は「しめる」とも「とじる」とも意味の重なる部分がある。本稿ではこの三語を比較し、その意味特徴の差異を明らかにしたい。また、参考までに中国語の「閉 (bì)」についても触れることにする。なお「関」「閉」は自動詞、名詞として使う場合もあるが、本稿では他動詞として使う場合だけを扱うことにする。

2. 中国語の意味分析

2.1. 辞書の記述

他動詞としての「関」「閉」については、『現代漢語詞典』と『漢日辞典』に次のように記述してある。

a 『現代漢語詞典』(筆者訳)

関(1) 使開着的物体合攏 (開いたものを一緒にする)。

(2) 放在里面不使出来 (中に閉じ込めて出られないようにする)。

(3) (企業等) 倒閉、歇業 ((企業) など) 倒産する)。

閉 関; 合 (閉める、閉じる、合わせる)。

b 『漢日辞典』

関(1) (開閉) [戸や窓を] 閉める、閉じる。

(2) (禁閉) 監禁する、閉じ込める。

(3) (倒閉) [企業などが] 倒れる、倒産する。

閉 (関、合) 閉じる、締める。

2.2. 「関」の意味分析

戸や窓を閉める動作を表すのは「関」のもっとも基本的な使い方である。

(1) 関門 (門を閉める)。

(2) 関窓（窓を閉める）。

「関」を使う場合、また次の例がある。

(3) 把抽屜関上（引出しを閉める）。

(4) 把保險櫃関上（金庫を閉める）。

(5) 把皮箱関上（トランクを閉める）。

これらの例における動作の目的は、対象物の出入り口を封鎖し、対象物の内と外の空間を遮断することである。ところが、次の例では「関」が使えない。

(6)[×] 把嘴関上（口を閉じる）。

(7)[×] 把眼睛関上（目を閉じる）。

(8)[×] 貝把殼関上了（貝は殻を閉じた）。

これらの例から、「関」の対象は人工物に限られると考えられる。なお、(6)～(8)は「閉」を使うのが普通である。

次の例において、動作自体は(1)～(5)における動作と似ている。しかし、「関」は使えない。

(9)[×] 把窓簾関上（カーテンを閉める）。

(10)[×] 把舞台的幕関上（舞台の幕を閉める）。

(1)～(5)と(9)(10)とは動作の目的が違う。(9)は窓の外に光が入ってこないように、(10)は舞台の上の物が見えないように履うのである。この場合「拉」（引く）を使うのが普通である。

これらの例から、「関」は＜出入り口を封鎖する＞という点に重点があると考えられる。

続いて、次のような例も考えたい。

(11) 把小鳥関在籠子里（小鳥を籠に閉じ込める）。

(12) 他天天把自己関在屋子里写小説（彼は毎日部屋に閉じ籠って（直訳；彼は毎日自分を部屋に閉じ込めて）、小説を書く）。

(11)は、籠の出入り口を封鎖し、小鳥が外に出られないようにすることである。(12)は、自分の意志で部屋に閉じ籠るのであるが、世間の人との交流を断ち、外界からの影響を遮断するのである。

(11)(12)の場合、「関」は、＜出入り口を封鎖する＞という動作そのものではなく、対象の＜行き来を断つ＞ということを表していると考えられる。実際、次の例における「銭」「桌子」のような自らの力で行き来することができないものについては「関」が使えない。

(13)× 把錢関在保險櫃里 (金を金庫にしまう)。

(14)× 把桌子関在屋里 (机を部屋にいろいろ)。

さらに、次の例をみよう。

(15) 文革時期, 他們俩被関進了‘牛棚’ (文化大革命のとき、あの二人は‘牛小屋’に監禁された)。

(15)は比喩的な用法である。‘牛棚’は文化大革命のとき、いわゆる‘反動派’を監禁したところである。広い意味では、寝るところだけでなく、労働するところまで指す。塙や戸などのものがなくても、‘牛棚’の中の人とは社会の人との交流の‘口’が封鎖され、一般社会と自由に行き来が出来なくなったのである。

以上の例から、「関」は＜出入り口を封鎖する＞という意味特徴の他に＜行き来を断つ＞という意味特徴を持っていると考えられる。「関」のこのような意味特徴から、万里の長城の出入りするところは「山海関」、「嘉峪関」などと呼ばれ、税関は「海関」と呼ばれるようになったのであろう。

戸や窓を閉める動作を表すほかに、電気・ガスなどの通り口を遮断して流れを断つ場合も「関」という。

(16) 把開関関上 (スイッチを消す)。

(17) 把水龍頭関上 (蛇口を締める)。

「関」は「スイッチ」「元栓」に言及せずに、電気・ガスなどを直接対象にすることもできる。

(18) 帶電作業危險, 先把電関上 (電気を通したまま作業するのは危ない、電気を切りなさい)。

(19) 関煤氣 (ガスを止める)。

(20) 関水 (水を止める)。

(21) 把火関小 (火を小さくする)。

(18)(19)(20)は「電気」「ガス」「水」が出ないように、(21)は「火」が強くなるようにすることであるが、「関」という動作はその「スイッチ」「元栓」に作用するのである。

さらに、電気・ガスなどを用いる機械などを対象として取ることもできる。

(22) 関燈 (電燈を消す)。

(23) 関收音機 (ラジオを消す)。

(24) 把機床関上 (工作機械をとめる)。

(25) 把煤氣炉関上 (ガストーブを消す)。

これも、電気・ガスを遮断し、「燈」「收音機」「機床」「煤氣炉」の働きを止めるの

である。

また、次のような例も見よう。

(26) 商店六点関門（店は六時に締まる）。

(27) 那家運輸公司関門了（あの運輸会社が倒産した）。

「関」は、「門」を閉め、(26)のように客の流通を断つことから、営業を終了する意味でも用いられる。さらに、客との交流を断つということから、(27)のように、企業などが倒産する意味でも用いられる。

ここまで分析してきて、「関」の意味特徴は明らかになった。それを次にまとめる。

関：出入口を封鎖し、物体の行き来を断つ。

2.3. 「閉」について

「閉」は対象が有生物の身体部位である場合よく使う。

(28) 他閉上了嘴（彼は口を閉じた）。

(29) 小白兔把眼睛闭上了（兔は目を閉じた）。

(30) 貝把壳闭上了（貝は殻を閉じた）。

中国語には、「閉門造車（門を閉じて車を造る・客観状況を考慮せずに、主観だけで仕事をする）」「閉門羹（門前払い）」などの慣用句があるが、日常会話では、戸や窓を閉める動作を表す場合「閉」はあまり使わない。

(31)[×] 閉門（門を閉める）。

(32)[×] 閉窓（窓を閉める）。

(31)(32)を次のような補語を含む構文に直しても言いにくい。

(33)^{??} 把門閉上。（注）

(34)^{??} 把窓閉上。

ただ、「閉」については個人差がかなりある。今後調査が必要とされる場所である。今回はここまでにとどまることにする。

3. 比較

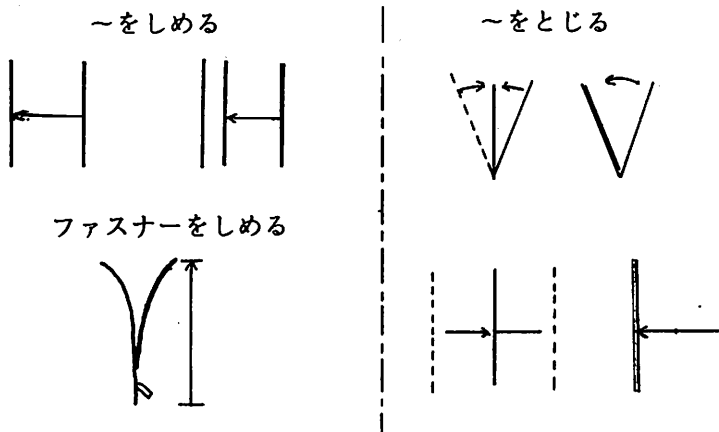
3.1. 「しめる」「とじる」

加藤1978は対象物の運動から「しめる」「とじる」を分析し、その意義素を次のように記述している。

しめる あるものをあるものに移動・接近させ、その間隔を狭める。

とじる ある空間を隔てて存在する二つのもののうち、何れか一方を、あるいは

両方共を移動・接近させ密着した状態にする。(p.64~65)



また、国広1979もこの二語について分析している。氏の分析は次のようにまとめられる。

シメルは芝居の舞台・窓・ガレージ・机などの〈本来構造物の一部を構成しているものを動かして空間をなくする〉ことである。(p.22)

トジルはものの〈離れていた部分を元に戻して全一体とする〉。全一体というとらえかたは、対象が時間に沿って続く事柄の場合には〈完結〉を意味することになる。(p.25)

以下、中国語と比較する際、両氏の分析を参考にする。

3.2. 対象

「関」「閉」「しめる」「とじる」の対象を次の表にまとめる。

日本語	対 象	中国語
しめる	a スイッチ・元栓	関
	b 人間・動物・電気・ガス	
	c 機械・テレビ・ストーブ	
とじる	d カーテン・幕	閉
	e 引出し・トランク	
	f 門・窓・扉	
とじる	g 目・口	閉
	h 本・扉・傘	
	i 会議・生涯	

3.3. 「関」と「しめる」

「関」と「しめる」との共通点は人工物しか対象にしえないことである。

- (35) 把電氷箱的門関上。
- (36) 冷蔵庫の扉を しめる。
- (37) 把抽屜関上。
- (38) 引出しを しめる。
- (39)[×] 把眼睛関上。
- (40)[×] 目を しめる。

(35)~(38)は「関」も「しめる」も使えるが、(39)(40)は「関」も「しめる」も使えない。

「関」は対象物の＜出入り口を封鎖して、行き来を断つ＞という点に重点があるが、「しめる」は対象物の両方の＜間隔を狭め＞（加藤1978）＜空間をなくする＞（国広1979）という点に重点がある。従って、カーテンなどを対象物とする場合、「しめる」は使えるが、「関」は使えない。

- (41)[×] 関上窓簾。
- (42) カーテンを しめる。

(42)は、カーテンを移動し、間隔を狭めながら空間をなくすという動作を表す。「関」は＜出入り口を封鎖する＞という点に重点がある。ところが、(9)(10)ですでに述べたように、「窓簾（カーテン）」を対象物とする場合、動作の目的は＜封鎖＞ではないため、「関」は使えない。

一方、「関」には＜出入り口を封鎖し、行き来を断つ＞という意味があるため、次の例で使えるが、「しめる」は使えない。

- (43) 秀英把孩子関在家里，上班去了。
- (44)[×] 秀英は子供を家に しめて 出勤した。

電気・ガスなどの通り口を遮断し、その流れを断つ場合も、「関」は使えるが、「しめる」は使えない。

- (45) 関上電源開関。
- (46)[×] 電源のスイッチを しめる。

また、次の例をみよう。

- (47) 把煤気関上。
- (48)[×] ガスをしめる。
- (49) 把水関上。
- (50)[×] 水をしめる。

(51) 関燈。

(52)[×]電燈を しめる。

(53) 関電視。

(54)[×]テレビを しめる。

(16)~(25)でも述べたように、「関」に〈出入り口を封鎖して、行き来を断つ〉という意味特徴があるため、「煤氣(ガス)」「燈(電灯)」などを直接に対象とする場合にも、実際の動作はその「スイッチ」「元栓」に対して働くのであり、「電流」「ガス」の〈行き来を断つ〉ということを表すのである。しかし、「しめる」はそのような読み込みが働かないので、(48)(50)(52)(54)は不適格になるのであろう。

3.4. 「関」と「とじる」

「関」と「とじる」は意味が重なっている部分がある。

(55) 関門。

(56) 戸を とじる。

(57) 関窓。

(58) 窓を とじる。

しかし、「関」には〈出入り口を封鎖して、行き来を断つ〉という意味特徴があるが、「とじる」にはない。よって、次の例で「関」は使えるが、「とじる」は使えない。

(59) 把小猫関在小屋里。

(60)[×]小猫を小屋に とじる。

(61) 每天関在家里，不出門。

(62)[×]每日家にとじて 外に出ない。

一方、「とじる」はものを〈全一体とする〉(国広1979)という点に重点がある。次の例をみよう。

(63)[×]把傘関上。

(64) 傘を とじる。

(65)[×]他把看了一半的书関上了。

(66) 彼は読みかけの本を とじた。

「とじる」は「傘」や「本」をもとの状態に戻して、それを〈全一体とする〉ことである。「関」はそのような意味を持っていないので、(63)(65)は不適格になるのであろう。

対象が有生物の身体部位である場合、「とじる」は使えるが、「関」は使えない。これも「とじる」には〈全一体とする〉という意味特徴があるが、「関」にはないため

である。

(67)[×] 他把嘴閔上了。

(68) 彼は口を とじた。

3.5. 「閉」と「とじる」

「閉」と「とじる」がともに使える例には次のものがある。

(69) 熊猫閉上了眼睛。

(70) パンダは目を とじた。

(71) 貝把殼閉上了。

(72) 貝は殻を とじた。

「とじる」は<全一体とする>という意味を持っているので、次の例で使えるが、「閉」はいいにくい。

(73)^{??} 把扇子閉上。

(74) 扇子を とじる。(国広1979p.24)

(75)[×] 許多蝴蝶停下来時把羽毛閉上。

(76) 多くのチョウは止まると羽を とじる。(同上)

また、「とじる」には<完結>という意味があるが、「閉」にはない。

(77)[×] 他閉上了九十歲的人生。

(78) 彼は九十歳の生涯を とじた。

(79)[×] 把今天的會議閉上。

(80) 今日の會議を とじる。

この場合、「対象が時間の軸に沿って続き」、<完結>したことを表す(国広1979)。中国語には、「閉会」「閉幕(閉会する)」などの言い方があるが、それは熟語であり、常にこの形で用いる。(79)のような言い方はしない。

4. おわりに

以上のように、中国語の「閔」と日本語の「しめる」「とじる」はともに「閉鎖」を表す動詞であるが、三語の意義は異なる。「閔」は<出入口を封鎖して、行き来を断つ>という点に重点があり、「しめる」は<間隔を狭め><空間をなくする>という点に重点があり、「とじる」は<全一体とする><完結>という点に重点がある。

中国語の「閉鎖」という動作を表す動詞には、「閔」の他に「閉」「合」「堵」「塞」などがある。今後は、これらの動詞を含めて更に考察を深めたい。

注

(33)(34)の二例は、北京市（4人）、天津市、唐山市、済南市、西安市、山西省太谷県、上海市、広州市、南寧市など出身地の異なる中国語話者12人のうち、西安と山西省太谷県の2人は適格とのことである。

／参考文献／

国立国語研究所（1964）『分類語彙表』秀英出版

加藤和夫（1978）「しめる・しまる・とじる・ふさぐ・ふさがる・とざす」

（『日本語研究』第1号、東京都立大学国語学研究室）

国広哲弥（1979）「シメル・トジル・トザス」（柴田武編『ことばの意味2』平凡社）

中国社会科学院語言研究所詞典編輯室（1979）『現代漢語詞典』商務印書館

吉林大学漢日辞典編輯部（1982）『漢日辞典』吉林人民出版社

言語経歴：0～19歳 中国南寧市 19～21歳 中国桂林市 21～
25歳 中国長春市 25～27歳 中国桂林市 27～現在
東京都

（東京都立大学大学院学生）